

『さっきゃま魂』

R3. 7. 12 第7号

発行人：校長 中山 末永

思いをつなぐ！

本校には、とてもすばらしいビオトープがあります。ただ、管理が十分にできておらず、とても気になっていました。6年生も、私と同じことを考えていて、きれいなビオトープにするために、進んで作業を手伝ってくれました。予想以上に大変な作業でしたが、少しずつきれいになっていくビオトープを見ると、疲れもとんでいきました。

早速、きれいになったビオトープに、メダカを入れました。川から魚を捕ってきて入れてくれる子どももいました。大きなビオトープを気持ちよさそうに泳ぐ魚を見ると、心も癒やされます。以前に比べて、ビオトープで遊ぶ子どもも増え、ビオトープは、生き物の大事なすみかであると同時に、子ども達にとっても、大切な遊び場所になってます。

最近、水草のすき間を泳ぐ産まれたばかりのメダカの赤ちゃんを見つけました。これからどんどん増えて、いつかは「メダカの学校」になったらいいなあと思っています。

ビオトープの横には、看板が立てられています。そこには、「世界一のビオトープ」と書かれています。「統合第32回卒業生（平成14年3月19日）」が、いろいろな思いを込めながら、大切に作り上げた卒業制作です。その思いを引き継いでいくためにも、これからも世界一のビオトープとなるよう、大事に管理していきます。



校外でも生きる「学び」

7月8日（木） 5・6年生と一緒に校外学習に行ってきました。出発前に、次のような話をしました。

「私は、見学するみんなの様子を見学に行く。学校でできることが、校外でもできないと本物とはいえない。挨拶・聞き方・マナーを大切にしながら活動してほしい。」

8時40分に学校を出発し、歴史資料館や教会など、全部で5箇所の見学を行いました。そこで、嬉しく感じた子どもの姿をいくつか紹介します。

まず、「話の聞き方」です。係の方の説明を聞きながら、大きく頷いたり、必死にメモをしたりするなど、たくさんのお話を学ぼうとする子どもの気持ちが伝わってきました。きっと、話をしてくださった係の方も、子ども達の真剣な姿を見ながら、気持ちよく話ができたとと思います。

次に、「説明を聞いた後の質問」です。積極的に手を挙げて、堂々と質問することができました。事前に考えている質問もあったかもしれませんが、その場で考えた質問もたくさんあり、学びを深める力が育ってきていると感じました。

最後に、「メモの取り方」です。係の方の説明を聞いたり、展示物を紹介する看板やプレートを見たりしながら、必死にメモをする姿が見られました。なかには、メモ用紙が足りなくなると施設の方からいただいた子どももいました。長時間の活動で疲れているにも関わらず、最後まで頑張り続けた子どもたちにとっても感心しました。

今回、五島市の歴史や名所などをたくさん学んできました。これからのまとめの活動を通して、より一層、ふるさとの良さに気づき、ふるさとを誇りに思う子どもを育てていきます。

